

文華苑の歴史

—鳥・風が運んでくれる—

文華苑にはセンダンやナンキンハゼの木が植え付けてあります。また、その種から自然に芽生えたものも成長しています。本来は、何百本と数えられないほどの幼木が生えてきますが、他の植物との関係もあって全て育成することは困難で、刈りとってしまいます。親の木から離れた場所で芽生えるのは、鳥類が果肉を食べ、種子が排泄物として播かれるからです。誰も植えていないのに、自然に生えている植物の種類は多数あります。シュロ・クロガネモチ・ネズミモチ・サンゴジュ・アオキ・ナワシログミ・センダン・ナンキンハゼ・ウメモドキ・カキノキ・ムラサキシキブ・サクラ・マンリョウ・ソヨゴ・シャシャンボ・ナンテン・ガマズミ・ゴズイ・カジイチゴ、その他数多くの実もの植物があげられます。これら実ものの植物は、実を食べてもらうことで、子孫繁栄を図っているのです。学園駅近くの道路の脇に、自然に生えたであろうと思われるセンダンの木があります。開花時期には、藤色の花が香りを漂わせます。また、文華苑から蛙又池の向こう岸には、かなり大きくなったセンダンやナンキンハゼが生えています。

人が植えなくても、鳥のはたらきによって種子が運ばれ、環境に適応して芽生え育つと考えられます。

果実は、果肉のまま土に埋めると、発芽率が悪いのです。果肉の中には、発芽を防止するホルモンが含まれているようで、その果肉を取り除いてこそ初めて発芽出来る状態に近付きます。鳥類は、果肉を取り除くために、利用されているとも言えます。実もの植物の種子が発芽する条件の一部を、動物が助けて整えているのです。後は、気温や水分、その他必要な条件が揃わないと発芽しません。発芽率が悪いのは当然のことです。そのために、沢山の実を付けるのです。鳥類が植物の種子を運ぶのと同様のはたらきを、あらゆる生き物がしています。

植物は様々な方法で種子を送り出します。皆様方もご存知のように、カエデやマツなどは風の力によって遠くまで種子を運んでもらいます。大和文華館の駐車場をよく観察しますと、随分多くの種類の植物が生えていることに気がきます。エノキ・ケヤキ・クロマツ・アカマツなども生えています。マツの種子の発芽率はあまり良いとは言えません。風によって運ばれ

てきた種子を小鳥たちは食料としています。駐車場に落ちた種子を鳥たちが発見することはたやすいはずでありますから、わずかな食べ残しが発芽したと考えられます。しかし、育たない内に人間がそれらを枯らしてしまいます。食べられることの少ない雑草の下で発芽しても、草に生い倒され、成長できずに最後には枯れてしまいます。

風によってどれ程遠くまで運搬されるかは分かりませんが、種子の重さによって随分異なります。学園前駅の近くに植え付けられているメタセコイヤの種子が風の力で文華苑の駐車場まで運ばれ発芽したと思われる幼木を、最近見付けました。本館や展示場の屋上には、驚くほどのマツの種子が飛んできています。排水口で発芽しているものもありますが、種子を集めてみますと、子房がなく、ほとんどが食べられたものや未成熟なものでした。成熟した種子が、風によって運ばれ、無事に発芽出来るというのは非常に少ないことが分かりました。発芽して立派な樹木に成長する確立はそれ以上に低いのでありますから、子孫繁栄のためには無駄かと思えるほど数多くの種子を作り出すのです。それは決して無駄にはならず、他の生き物にとって有益なものとなります。このことは自然の植物に組み込まれた自然の掟です。人間社会だけに、無駄という言葉があるのだと思います。自然の法則を私たちがもっと理解すれば、消えつ

ある樹木林を再生出来るかも知れません。

現在、人間は自分たちが作った果物を食べに来る鳥たちを追い払います。また、果物を食べても、ほとんどの種子を生ゴミとして扱っています。人が品種改良をして作り出した実もの植物は、とんでもない時期に収穫出来るものであったり、種子がなかったりします。鳥に食べられなくし、自然だけでは育つことの出来ない樹木にしています。葉漬けの実を人だけの物にしているのですから、自然の法則に逆らった行為をしているとしか思われません。植物にとっては誠に迷惑なことえをしています。人間は植物の犠牲のもとに成り立っているわけではありません。もっと人間は、植物のために役に立たなければならないのです。利用されなければなりません。

私たち人間が、利益のため、スギやヒノキのように同じ植物ばかりを植え付けるのは間違いです。自然に生えた植物であっても、活かせるように考えなければなりません。駐車場のマツの芽生えでも、育成すれば立派な樹木になることを忘れてはなりません。偶然に生えたサクラでも必ず綺麗な花を咲かせてくれるのです。様々な植物を利用するお返しとして、植物の手助けを人間がしなければならぬ時代です。ちっぽけな文華苑であっても、こんなことを考慮した苑であれば、今まで以上に親しんで頂けるのではないのでしょうか。



実生の桜

樹齢30年。自然に生えたものが成長しました。里桜の自然交配と思われる。白色、一重、中輪、4月中旬開花。



ナンキンハゼ

文華苑から蛙又池の向こう岸のナンキンハゼ。落葉後で白っぽい実が付いています。文華苑のナンキンハゼの種子から育ったと思われる。

季刊 美のたより No.137

平成14年 1月 5日

発行 大和文華館